



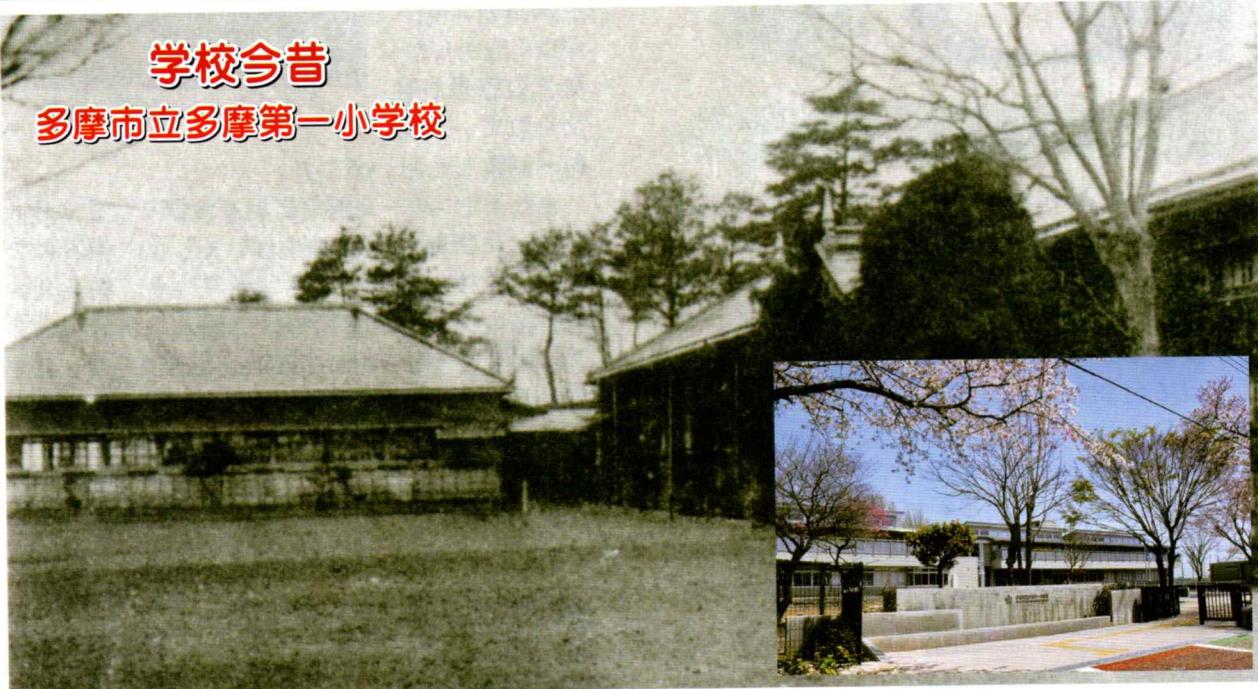
日野  
多摩  
稻城

# 地区 保護司会だより

第59号

## 学校今昔

多摩市立多摩第一小学校



## —— 分区長になって思うこと ——

日野・多摩・稻城地区保護司会  
副会長 青木智子



今年度4月に、地区副会長兼多摩分区長を拝命しました。現在、社明運動と保護司の確保に力を費やしています。

社明運動は、保護司の啓発活動の一大イベントです。

分区それぞれに特色を持ちながら、各分区がお互いに応援しあい盛り上げています。多摩分区は2年目となる「3駅における街頭啓発活動」(聖蹟桜ヶ丘駅・多摩センター駅・永山駅)を行いました。横断幕の設置、お揃いのホゴちゃんTシャツの着用、着ぐるみ「タマボラ君」「ダメ。くま君」の登場、出発式・解散式開催、中学生に対する出前授業、小中学生の社明運動への参加要請と社明作文募集(応募数183通)を行いました。前任者の実績を引き継いで、基本的な骨組みは作れたと思います。

保護司制度を健全に維持する大前提である「保護司定数の充足」は、多摩分区においては深刻な問題です。当地区では保護司候補者検討協議会が設立されており、この会からの推薦を頂いております。この会の活動を通じて保護司の仕事を理解して下さる方も増えたと感じております。

保護司を引き受けて頂くにあたって、最近は対象者との面接場所の問題が無視できない状況となっております。住宅事情の変化に伴い、自宅で面接を行うことが困難である場合が多くなっているからです。この解決策として多摩市が「使い勝手のよい面接室確保」を検討してくださっています。

私自身、人生の締めくくり段階となった今、更生保護の分野の仕事に関わることができたことをありがたく思っております。

## 第69回「社会を明るくする運動」



### 活動報告

#### 日野分区

日野分区では昨年まで「子どもいきいきふれあいステージ」を開催していましたが、8つの中学校を2巡し一定の成果を得たことから、更生保護への理解を更に深めてもらうために、全中学校2年生1,316名を対象に出前授業を行いました（6月28日～7月17日）。共通の資料を用意し打ち合わせを行ったところ、校長先生からは犯罪の予防についても触れて欲しいとの要望を頂き、未然防止の観点を加えました。また日野警察のご協力を頂き、実際の日野市内の少年



出前授業

犯罪の資料を用意しました。その他にも作文コンテスト入賞作品の朗読や、鉄拳さんパラパラ漫画を上映するなど工夫しまし

た。生徒からは「ふれあいステージでは十分理解出来なかった更生保護の大切さが良く分かった」などの感想が寄せられて、保護司一同嬉しく思いました。

またイオンモール前の広場をお借りして7月6日(土)に街頭広報活動を行いました。当日は日野市、学校、警察、更生保護女性会、桐友会、他分区の保護司、日野分区保護司の合計93名のご参加を頂き賑やかに広報活動出来ました。なかでも周辺3校の中学校ボランティア部の皆さんがあなたに活動し、通りかかった方々は喜んでグッズを受け取ってくれました。また警察の「ピーポくん」は小さなお子さんから親しまれ写真撮影に応じました。大坪市長も率先してグッズ配布をして

いただきました。

来年も中学校授業と街頭広報活動は続けたいとの意見が多く、実りある運動となりました。



イオンモール前に集合

#### 多摩分区

今年度の「社会を明るくする運動」は昨年に引き続き、聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、多摩センター駅周辺での街頭啓発活動を行いました。

開始時刻を昨年の午前9時から午後4時に変更し、中学生の参加が可能になりました。そしてポケットティッシュ及び啓発チラシを通行中の多摩市民に声掛けをしながら配布しました。聖蹟桜ヶ丘駅では推進委員長である阿部市長と粟井会長に、永山駅では清水教育長と関戸更女会長に、多摩センター駅では中島觀察官にそれぞれご挨拶をいただき、ご一緒に活動を行いました。おかげさまで短時間に多くの方々に「社会を明るくする運動」の趣旨及び更生保護についての啓発が図れました。



聖蹟桜ヶ丘駅前

応援参加団体は、更生保護女性会、青少協各地区委員会、民生児童委員、他分区保護司会、桐友会など、多

摩市内各種団体のご協力をいただきました。また多くの中学生の参加もあり、合わせて298名のご協力を得ることができました。

さらに、今年度は出前授業を落合中で実施でき、多くの児童生徒へ更生保護についての啓発が図れたことと、社明作文コンテストには小中学校合わせて183点のご応募をいただいたことも成果といえます。



多摩センター駅前

来年度も街頭啓発活動を中心として地域の皆様のご協力を頂戴しながら取り組んでいきたいと考えています。



永山駅前

## 稻城分区

“社会を明るくする運動”はすべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築こうとする全国的な運動です。

稻城分区では7月1日実施の社会を明るくする運動に向けて事前に5回程の会議を行い7月1日の駅頭啓発運動を迎えました。JR南武線の南多摩駅、稻城長沼駅、矢野口駅、京王線の若葉台駅、稻城駅、読売ランド前駅、また平尾地区でのバス停において保護司を始め、更生保護女性会、各中学校生徒及び先生、各種23団体、総計452名の方々に参加して頂きました。絆創膏と市内小中学生が折った幸せの黄色い折鶴をポケットティッシュに入れて通勤の皆さんに社明運動を呼びかけました。そして、稻城市社会を明るくする運



平尾バス停

シュに入れて通勤の皆さんに社明運動を呼びかけました。そして、稻城市社会を明るくする運

動推進委員長の高橋市長、加藤教育長が各駅頭参加者の中学校生徒・先生そして各種団体の方々と記念写真を撮り運動を盛り上げました。



稻城長沼駅

7月23日には読売ジャイアンツ球場にて啓発活動を行いました。保護司と更生保護女性会の13名で球場入り口で啓発活動を行いました。また、球場内の電光掲示板に社明運動のメッセージを流して頂き運動を盛り上げました。更に各地区での夏祭りや盆踊り会場でも社明啓発活動を行い、地域の方々との連携を強め地域の犯罪や非行を予防する大きな力となり、地域の誰もが参加できる犯罪予防啓発活動としてこれからも社会を明るくする運動を展開して行きたいと思います。



ジャイアンツ球場

## 着任のごあいさつ

東京保護観察所長  
宮田 祐良



日野・多摩・稻城地区保護司会の皆様には、平素から更生保護諸活動に御尽力を賜り、深く感謝申し上げます。4月の異動により大阪から東京に参りました。東京保護観察所での勤務は25年振りとなります。どうぞよろしくお願ひいたします。

2020東京大会も目前となりました。オリ・パラの東京招致が決まってから五輪成功に向けて様々な取組が行われたと思いますが、その一つが「世界一安全な国」で世界のお客様をお迎えし、安全・安心な日本であることを内外に発信していくというものでした。近時、強力に求められている再犯防止への取組もこれに当たります。

準備は万端でしょうか？私たちは出来ることはやり遂げたでしょうか？新しい法律も出来ました。国の計画に次いで、東京都においても再犯防止推進計画が策定されました。まだまだ道半ばかもしれません。

6月にサポートセンターを拝見させていただきました。さすがに早くから取り組まれた日野・多摩・稻城地区であり、「一日の長」の智恵を積み重ねてこられて十二分に活用されておられました。最も一番印象に残ったのは、サポセンにおられた保護司さんの笑顔。ニコニコと自ら楽しまれている様に、「この笑顔に会いたくて、またサポセンを訪ねてくる人がいるのだろう」と実感しました。再犯防止は道半ばかもしれませんが、何より楽しみながら進むこの道に誤りはないと確信しています。

会員各位の御健勝をお祈りいたします。

## 更生保護女性会 分区活動報告

### 日野分区

分区長 志田千代子

- 5月 \* 日野・多摩・稻城地区更生保護女性会総会
- 6月 \* 社明に向けてのグッズ作り
- 7月 \* 日野・多摩・稻城 各社明に参加
  - \* 東京更生保護女性会社明参加
- 9月 \* 手をつなごう子どもまつりグッズ作り
  - \* 昭島矯正展参加
  - \* 市内全小学校・2幼稚園に絵本「こうくんときいろいろはね」を贈呈
- 10月 \* 第6ブロック研修会開催分区
  - \* 手をつなごう子どもまつり参加
- 1月 \* 多摩少年院成人式参加

◎更生保護施設、国立  
「安立」・八王子「紫翠  
苑」に生活用品寄贈と  
寄付

●今年から日野の社明が  
街頭活動に変わり、グッ  
ズ（タオルのホゴちゃん）の数が少なく悩み  
ました。子供やお年寄  
りが喜んで受け取る姿に、来年は数を増やし、  
より多くの方に手渡ししたいと感じました。



### 多摩分区

分区長 野原 瑞子

5月の地区総会を終えると社明運動の準備が始まります。街頭啓発活動に変わって2年目の今回は聖蹟桜ヶ丘駅を軸に、市内3駅周辺で行われました。保護司会の綿密な準備の下に更女会も提携しグッズ作り、配布物の仕分け等を行ないました。グッズ作りは楽しい共同作業です。

6月に1週間、女性センター所属の団体を紹介するパネル展示は更女活動をPRする大切な場となっております。

日野・多摩・稻城地区が当番となった第6ブロック研修会も今年の大きな行事でした。

12月は恒例のオークション！和やかな催しで

すが、売り上げの一部を更生保護施設への寄付活動資金として活用しています。

1月の分区会は、勉強会兼新年会、新たな心構えで新年が始まります。

今後の課題は会員の増加です。若い方にも会員になっていただき現会員と共に協力して安全な街作りの一助を担う息の長い活動を続けていけたらと思っております。



### 稻城分区

分区長 井上美代子

稻城分区は、お陰様で毎年会員数が増員しており、これは単に皆様のご理解とご協力によるものと感謝しております。活動の大きなものは、《社会を明るくする運動》に保護司の方々と車の両輪として、6箇所の駅と1つのバス停に於いて、市内の小中学校の生徒が折った黄色の鶴が入ったティッシュやメディックバンを配布する啓発活動を行いました。そして、7月から8月にかけて行われる稻城市内の「夏祭りと盆踊り」においても配布と啓発活動を行いました。8月の分区会においては、研修の為に市内の派出所に依頼をし、講演をして頂きました。「身近なお巡りさん」のわかり易いお話は、振り込め詐欺への注意喚起におおいに役立ちました。また、身近な自転車に乗る事の多い高齢者にとっ

ては、自転車の乗り方のお話がとても良く、自転車で走るべき場所や、表示が良くわかりました。私ども更女の活動資金源は何と申しましても、夏のそうめんと冬のチャンポン販売から得るお礼金です。いつも保護司さんにはご協力を頂き、有り難うございます。そして、10月の「いなぎIまつり」におけるバザーへの参加から得る売上です。それらは、私達の研修費に使わせて頂き、研鑽を重ねております。全くのボランティア活動ですが、全員がやりがいを持って頑張って活動をしています。



# 視 察 研 修 報 告

## ● 日野分区

令和元年11月18日(月)～19日(火)に視察研修を行ってきました。保護司の参加者は12名。場所は長野県安曇野市穂高にある「鐘の鳴る丘有明高原寮」です。

有明高原寮は北アルプス山麓に位置するフェンスも格子もない開放的な少年院となっています。当日は有明高原寮の歴史や教育活動や一日の生活などを説明していただき、さらに院内を案内していただきました。

ここは、短期処遇にのみ対応しており、少年の平均収容期間は4ヶ月～5ヶ月程度だそうです。そして比較的不良傾向の進んでいない少年が収容されていて、現在は7名が入院しています。

教育内容も「自己の問題性を見つめさせる教育」「親子の絆を強くする教育」「心を豊かにさせる教育」

「出院後の生活を考えさせる教育」を柱とし、担任の先生とともに取り組んでいるそうです。



1年の行事も充実しており、遠足、ディキャンプ、盆踊り大会、マラソン大会、水泳大会、運動会、収穫祭、クリスマス会、スキー訓練等バラエティに富んだものとなっています。行事等は地元の皆さんと一緒にに行っており、それにより社会性を身につけ、大勢の人から認めてもらえる貴重な経験をさせてもらえるとの事でした。とても開かれた少年院だという印象でした。

そして視察研修に加え、穂高の清々しい空気に触れ、観光もしながら交流も深まりとても有意義な研修でした。

## ● 多摩分区

11月12日～11月13日、秋の深まりを感じる中、多摩分区は11名の保護司で静岡県浜松市にある金原明善記念館を訪れました。

金原明善という名は、保護司に委嘱され本庁で行われた第1回目の研修で初めて耳にした覚えがあります。その時には、明治時代に保護事業を始め、後の保護司制度の祖となった人であるとだけの認識でした。しかし今回記念館を訪れ、館長より金原明善の幅広い功績を、資料を見ながら説明して頂き、改めて金原明善という人のすごさを目の当たりにしました。特に、台風19号の河川氾濫の被害の大きさに心痛めたばかりのタイミングで、治水・治山工事に尽力した功績には胸打つものがありました。



優れた事業家であった明善が、1880年に一人の男に出会った時から、保護事業に乗り出し、保護司と保護施設の制度の祖となる過程は、保護司の原点であり、140年たった今もその心をすべての保護司は忘れずに、これから保護司活動の糧にしていかなければならぬと思いました。

最後に金原明善が残した言葉で非常に印象に残ったものは、「金は値打ちの無いところで儲け、値打ちのあるところで使え」、「事業の発展進歩はその事業に携わる人々にある。そしてこの人物の育成は教育に俟たねばならぬ」でした。

## ● 稲城分区

今年の稲城分区の視察研修の視察先は千葉県市原市の市原学園です。9月9日の台風15号、10月12日の19号の発生で千葉県は非常に大きな被害を受けました。視察先の施設では研修を受け入れられるのか、また宿泊先も受け入れられるのか心配して、その都度、確認していましたが大丈夫であるということでした。しかし、さらに10月24日に大雨が降り、本当に大丈夫なのかと再度確認し、施設、宿泊先とともに大丈夫であると返事がもらえてほっとしました。

10月30日、昨日の雨がウソのように晴天、8時45分までに参加者15名が遅れる事なく稲城市役所に集合し、9時に出発しました。途中、飯香岡八

幡宮に参拝し、「道の駅あずの里いちはら」で食事をとり、市原学園に向かい、予定通り到着しました。



13時からの視察では、佐藤次長から概況説明を受けましたが、非行化させる10箇条の説明には、その通りだと面白く聞きました。その後施設の見学を行い視察が終了しました。

翌日は災害支援の手助けとして、「寿萬亀酒造」、浜焼き「まるはま」、「JAきみつ」と立ち寄り、皆さん沢山の買い物をしていました。予定通り16時に稲城市に帰り、有意義な研修が終了しました。

## 令和元年度 第6ブロック保護司組織運営連絡協議会 報告

去る10月16日（水曜日）に京王プラザホテル多摩にて、今年度の協議会が開催されました。当地区が当番地区となり、協議題「東京の保護司活動の今、そして、これから～東京の更生保護を守り抜くために～」について議論を重ねました。



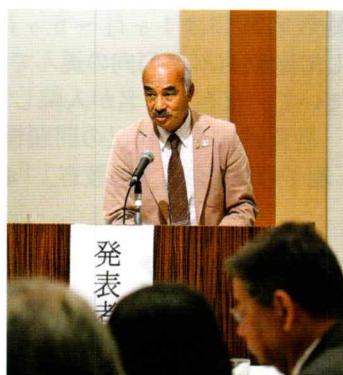
まず「保護司の安定的確保のための10のアクションプラン」の各項目について、4地区がそれぞれ直面している課題と今後の方策を発表しました。ご承知のように当地区では、今後5年で24名もの保護司が退任する予定です。他地区においても同様の状況であり、保護司のなり手を発掘することが喫緊の課題であることは、ブロック全体を通じ、危機感とともに改めて共有されました。

次に今後の方策について、当地区からは保護司候補者検討協議会やサポートセンターの活用、地域の関係機関との連携強化、先輩保護司による新任保護司研修といった現在の取り組みと、面接場所の拡充、情報発信の強化、社明運動やサポートセンター百草台だよりを通じた保護司

の認知度の一層の向上など、新たな取り組みについても説明をしました。さらに、新任保護司が企画調整保護司と体験駐在に就く取り組みを提案しました。

これらの取り組みは他地区においても関心事のようであり、非常に闊達な質疑応答が行われました。そして、その後の懇親会では、地区の垣根を越えて善隣を重ねることができました。

目下の課題は多々ありますが、保護司が一丸となって精励することが肝腎要の一事であるという初心を思い出す、大変有意義な協議会となりました。



令和元年度

## 更生保護女性会 第6ブロック研修 報告

日野・多摩・稻城地区更生保護女性会  
会長 関戸 良

令和元年度の東京更生保護女性会第6ブロック研修会が、去る10月11日（金）多摩市立関戸公民館8階ヴィータホールに於いて開催されました。当日は、約180名の参加者があり、第1部は『再犯を防ぐために』をテーマに、～これからの中再犯防止推進に向けて～と題してシンポジウムを行いました。



最初に基調講演として『東京都再犯防止推進計画の策定について』という演題で東京都都民安全推進本部総合推進部共生社会担当課長の小宮山みき氏より東京都を取り巻く状況と、計画策定に関するお話を伺い、その後、日野、多摩、稻城3市の担当者から、今までの取り組み状況や、特色、また3市合同での協議を続けていくことなどの報告がありました。

次に、実際に対象者を受け入れ、社会復帰への支援に携わっていらっしゃる『くにたち安立』施設長の木村清逸氏より、再犯に関する現状についてお話を伺いました。

シンポジウムを通じ、各市の取り組み、また



更生保護施設の現状を伺うことにより、更生保護に携わるもの1人として、関係機関との連携、犯罪予防活動の広報、啓発活動の大切さを再認識した次第でございます。

第2部は、「くにたち市民オーケストラアンサンブル」によるコンサートを聴きました。更女会員のご家族の方が応援に出演してくださいり、お勉強のあとにホッと一息、とても楽しいひと時を過ごすことができました。



最後になりましたが、当番地区に当たり、当地区保護司会様には多大なご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。また、無事に研修会を終えることができましたことを、更女会員、行政の皆様に深く感謝申し上げます。



## 日野・多摩・稻城地区桐友会報告

日野・多摩・稻城地区桐友会  
会長 佐伯 進

東京桐友会日野・多摩・稻城地区支部は、保護司を卒業した90歳を超える大先輩を先頭に会員22名で組織しています。日頃、日野・多摩・稻城地区保護司会から大変厚い支援と協力を頂き支部活動を行っております。

本会の主たる目的は、第一に、会員の親睦と交流を深めることで、第二は、地区保護司会と連携を図りつつ側面から協力を行うことあります。

毎年行っています活動の主なものとしては、定期総会の開催あります。来賓として地区保護司会の会長や総務部長のご出席を頂いております。この日は会員が一年一度一同に会する機会でもあり、総会議題の審議はもとより、親睦と交流を深める最大の場で毎年楽しく和気藹々(あい)に行っています。そして、東京桐友会の「会員の集い」への参加です。

地区保護司との関連としては、社会を明るくする運動の啓発事業への参加と、保護司候補者検討協議会への参加であります。



## 新任のご挨拶 ご活躍を期待します



多摩分区 遠藤 明子(広報部)

本年9月17日付で保護司を委嘱されました。2回の新任保護司研修を受けたばかりですが、先輩保護司との複数担当ということで早速対象者を受け持つことになりました。目の前の対象者に真摯に寄り添いながら、これから立ち直りをサポートしていきたいと思います。

身边に先輩のご指導をいただきながら活動をスタートできたことは大変ありがたく、謙虚に学びながら活動してきたいと思います。よろしくご指導のほどお願いいたします。

## 3市職員との意見交換会の報告

令和元年度の「3市職員と保護司会との意見交換会」が7月26日にサポートセンター百草台会議室で行われた。

東京保護観察所立川支部からは柴田支部長と宇田統括保護観察官、3市からは各担当部長他2名に出席いただいた。

参加者の自己紹介の後議事に移り、最初に柴田支部長より千代田区の策定した再犯防止推進計画を参考に「再犯防止推進計画」について講義いただいた。次に意見交換においては、各市の「再犯防止推進計画」の策定に関する取り組みの現状が発表された。特に、稻城市を幹事として3市合同の検討会を開催する流れができたとのことであった。

地区保護司会からは、第69回社会を明るくする運動の結果報告、サポートセンター百草台の利用状況の報告などと共に、来年の1月15日の新春の集いは地区20周年記念式典として行われることなどを報告した。

特に協議事項においては、サポートセンター百草台の事務室のエアコンの修理・増設、多摩分室の面接室の使いやすさの改善などについて支援をお願いした。また、稻城分区の面接室の増設については2室増設いただけたこととなった。(総務部)

## 表紙写真の説明 一学校今昔一

明治5年、多摩村に4つの学校ができた。向岡(連光寺)、兆民(和田)、処仁(乞田)、陶民(関戸)という名で学舎は寺であった。明治45年、向岡、兆民、処仁の3校を合わせて、今の市役所の所に新校舎ができ、東京府南多摩郡多摩尋常高等小学校となつた。昭和39年、現在地の関戸に移った。

(写真提供: 多摩第一小学校・100周年記念誌)

## 編集後記

今年は異常気象による豪雨災害、記録的な猛暑や二度の大きな台風襲来など例年以上に厳しい夏でした。さて、会報59号をお届けすることができました。主なテーマは社明運動、視察研修、更女の分区活動の報告です。原稿、写真等の要請に快く応じて頂いた皆様に感謝します。

### ■サポートセンター百草台

〒191-0033 日野市百草999番地  
電話 042-593-0950 FAX 042-506-5474  
メールアドレス: vpoctormog@true.ocn.ne.jp